



池田 良穂

(大阪経済法科大学)
客員教授

新クルーズ学

▶12▶

クルーズ客船「ばしふいっくびいなす」が、今年「就航20周年記念」と銘打って様々なクルーズを行っています。

10月末に、乗りやすい週末を使った3泊4日のクルーズがあったので乗船しました。神戸港を金曜の夕刻に出港して、有名な釜山の大火火を洋上から鑑賞して、翌日は釜山観光。日曜夕刻に釜山

港を出港して、翌日は朝から瀬戸内海のクルーズを堪能、夕刻に神戸港に戻るといいう日程です。

ぽんぷいっくびいなす

外国船に比べると1日間を除くと朝から夜まであたりの料金は高めですが、日本人シェフの洋食や和食は日本人の舌にはよく合い、海を眺めての客船は、関西と九州を結ぶ阪九フェリーや、関西と北海道を結ぶ新日本海



神戸港の中突堤に着く「ばしふいっくびいなす」

フェリーと同じグループの会社で、日本のクルーズ元年と呼ばれた平成元年よりも前から、フェリーを改装した「ゆうとぴあ」を使ってクルーズ

事業を開始し、第2船は「にゅーゆーとぴあ」、そして同社初めての新造船の「おりえんとびいなす」で本格的レジャークルーズに進出しました。そして「ばしふいっくびいなす」は平成10年に石川島播磨重工で建造されました。全長は183m、総トン数は2万6594トで、旅客定員は532名と今では小ぶりなクルーズ客船です。この小ささを生かして、瀬戸内海ではメインルートだ

けでなく島間の狭水道も通ることが出来ます。今回のクルーズでも、行きはメインルートの来島海峡を、帰りは本州側の三原水道を航海しました。今回のクルーズでは松井船長が指揮をとり、定時のブリッジからの航海状況のアナウンスは聞きやすいのが印象的。昼のアナウンスは女性的の3等航海士が担当していました。筆者は大阪経済法科大学で「クルーズビジネス論」という国際クルーズ客船に乗ったことがある人も少なくありませんでした。「食事は日本船ね」「レストランで言葉に困らなくて助かる」「いつでもお風呂に入れるのはいいね」といった日本船のメリツトをあげる人が多くいます。ただ、釜山からの帰りに海が荒れて船が揺れたので「酔いを考えると大型船だね」といった声や、「料理のチョイスができる」といった外国船のメリツトを挙げる人もいました。

しかし、確実にクルーズを楽しむ人の輪が広がっており、日本でもいろいろなクルーズを選択できる時代になったことを実感しました。

就航20周年で記念クルーズ